

今年度の園・学校の運営にあたって



幼・保・小共同の校内研究の様子



1年生の教室(6年生のお世話)の様子

新年度がスタートして、1週間が経ちました。1号でも書きましたが、新たな年度・出発は、人の気持ちを前に向かせる力があります。3月とは少し違う姿で、張り切って登校(園)してくる子どもたちをたくさん見かけます。このやる気を、少しでも継続できるようなサポートを続けていきたいと、心から思います。

新年度のスタートにあたり、園・学校の運営について、簡単にご紹介したいと思います。台場は、人権尊重教育を基盤に据え、学力向上・特別支援教育の充実・豊かな心や健やかな体の育成などに、広く取り組んでまいります。

それらの実現に向けた視点としては、「日常的な授業の工夫改善」「さまざまな交流活動の推進」が、大切な柱です。毎日の授業(保育)は、子どもたちの学校(園)生活の基盤であり、「楽しい」「もっとやりたい」といった気持ちが、次の活動につながるエネルギーになります。学校や園では、幼保小の連携の取組としての「架橋研」や、児童の「できた」や「わかった」を増やすための取組としての授業研究「教えて考えさえる授業」などに、学校・園をあげて取り組んでいきたいと考えています。

もう一つの「交流」も重要です。相互理解は自己理解にもつながります。交流は、「自分も大事 友達も大事 認め合い」の実現に向けたベースとなる活動です。幼・保(台場幼稚園と台場保育園)の交流、幼保と小の4・4交流や5・5交流、小学校におけるたてわり班活動や学校行事など、学年や校種等の壁を越えた重層的な交流が、台場の特色です。もちろん、普段の授業(保育)の中でも、友達との交流(関わり)場面がたくさんあります。

人権尊重教育は、例えば「人権」という教科があって行われるようなものではなく、すべての教育活動の中で行われるものです。外部講師のお話を伺うような時間だけでなく、毎日の教育活動の中でも、人権感覚・人権意識を育むことができるよう、日々取り組む必要があります。人権教育の目指すところは、「自分の大切さとともに、他の人の大切さも認めること」と、東京都の人権教育推進のための資料にも示されています。

毎日の学校(園)生活は、他者との関わりとの連続です。関わりがあることが、学校(園)の存在意義だと言っても言い過ぎではないと思っています。